

ほほえみ 第52号



2015年も、はやくも3月となりました。朝晩は冷え込んでいますが、日中の陽射しには春めいたものを感じます。皆様、いかがお過ごしでしょうか。先月、子供を連れてスキー場に久しぶりに行きました。思ったほど混んでいませんでした。かつては、たとえ滑れなくても、スキーぐらいは行かないと、という時代もあったのですが、今はスキーやスノーボードを楽しむ人(のみ)が行くことになったようですね。食事処も、すさまじい混み方ではなかったです。

5FU系薬剤の粘膜障害について

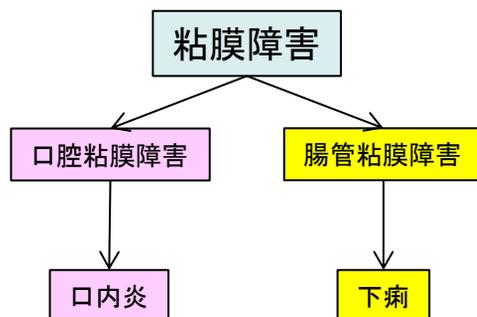
消化器系のがんの化学療法の際に、使われる頻度の高い薬剤に5FU(ファイブ・エフユー)があります。この薬剤はDNAやRNAに必須の核酸という物質に似せた薬剤で、主にDNAの合成を阻害するものです。5FUは元々は注射剤なのですが、同系統で内服できる抗がん剤も多く開発されています。むしろ、現在は内服で使われることの方が多くなってきているかもしれません。この薬剤には粘膜障害という副作用があります。

具体的には口腔粘膜が荒れると口内炎、腸管の粘膜が荒れると下痢になります。口内炎は軽い場合には、びらん(アフタ)と呼びますが、粘膜が深く荒れると潰瘍となります。刺激物は症状を悪化させるので、塩辛いもの、辛いもの、酸が強いものなどは控えることが良いと思われまます。また、口腔内のケアが重要となり、口腔内の細菌が増殖すると粘膜が荒れやすくなります。洗い流すのが良いのですが、沁みるような口腔洗浄剤は避けたい方がよいでしょう。殺菌剤でうがいするのは、一見、細菌が少なくなって良さそうに思うのですが、粘膜自体が荒れることと、細菌の分裂増殖が非常に速いので、菌数を長時間コントロールすることに寄与しないため選択されません。アズノールなどのうがいが行われますが、水道水はほとんど無菌なので、水道水でうがいしても十分だと思えます。洗い流すほかに、粘膜の乾燥を防ぐ意味でも重要です。5FUに注射剤の場合は、口腔粘膜の血流を下げる意味で、氷を口に含むということもありますが、内服剤の場合、急速に濃度は上がらないこと、常に氷を含む訳にもいかないので難しいですね。

同じ粘膜が荒れるのでも、腸管粘膜が荒れる場合は下痢となります。下痢なら下痢止めと考えがちですが、下痢の場合に最も重要なことは、脱水を防ぐことです。症状によっては下痢止めが必要となりますが、下痢止めは粘膜障害自体を修復しているものではないので、下痢止めを過信はできません。

下痢の場合には、まずは水分を摂取することができれば、大きな心配はありません。まずは水分補給が重要ですが、真水だけでは塩分が喪失するので、スポーツ・ドリンクや、スープ系のものが良いと思えます。

口から水分が取れない場合には、点滴を行う必要も出てきます。化学療法から何日目あたりに、どの位の下痢になったかというのは、回復までに要する時間を推測する上でも重要な情報となります。普段の治療の際から、ノートやカレンダーに記録をとっておかれることをお勧めします。



おかげ犬参上

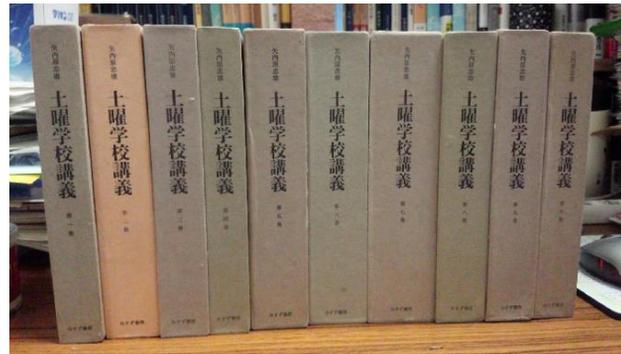
診察室のテーブルの上に、「おかげ犬」がいます。このおかげ犬とは何ですかと聞かれることも何回かありましたので、おかげ犬さんのご紹介をしたいと思います。

伊勢神宮の式年遷宮(2013年)が行われて今年は翌々年になりますが、江戸時代には式年遷宮の翌年、翌々年などに「おかげ参り」というのが広く行われて、人々が行列をなして参拝したという記録が残っています。おかげ参りができない人が、犬を代参させるということも行われ、飼い主の名前・住所をつけた飼い犬が飼い主の代わりにおかげ参りをしたというのです。恐らく、おかげ参りをする他人が、一緒に犬を連れて行ってきて、お札を持たせて、また誰かが飼い主のもとまで連れてきてくれるという、ほのぼのとしたものなのです。昨年、伊勢に行った際に、心温める話だと思ひ、おかげ犬さんに参上してもらいました。単に、かわいいからでもあるのですが・・・。



土曜学校講義

矢内原忠雄が、戦争の色濃くなった時代、東京大学を追われ公職をはなれた期間に、自宅で有志の青年に行った講義録です。参加者(久保田ちと子さん、靱山民子さん)が筆記されたものを、矢内原伊作、藤田若雄の両氏が編集して全10巻としています。アウグスチヌス(告白、神の国、三位一体論、ペラギウス論争)、ダンテ(神曲)、ミルトン(楽園喪失)が講義されています。第二次世界大戦中の戦火の中も講義が行われておりました。基本的に口語体なので、矢内原先生の話ぶりが伝わってきます。講義者の博識、人生観が織り交ぜられた、極めて内容の濃いものです。ようやく半分近くですが、少しずつ、メモを取りながら読み進めています。



市民公開講座の御礼

2月11日に行った、市民公開講座「がん哲学外来 病気であっても、病人でない」は、文字通り満席でした。休日にもかかわらず、ご来場いただいた方々に、心より御礼申し上げます。開場前からお待ちになっている方も多く、もう少し広い会場でもよかったかなと反省しています。今後も、機会があれば、何か企画したいとは思っております。宜しく願い申し上げます。

MEMO

3月のがん化学療法科の予定

3月3日	ひな祭り
3月13日	柴田教授外来
3月14日	ホワイトデー
3月21日	春分の日
3月27日	柴田教授外来

